

令和2年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都江戸東京博物館(分館江戸東京たてももの園を含む)

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理(施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○日々の維持補修に加え台風など突発的な事態にも適切に対応している。また、江戸博では屋上防水改修等、たてももの園では復元建造物の計画的修繕に向けた設計や耐震化工事等を行った。 ◎江戸博では災害時の一時滞在施設としての運営体制強化のため、委託事業者を巻き込んだ「江戸博防衛隊」を組織したほか、コロナ禍に対応するため危機管理マニュアルの改訂等を行った。たてももの園でも、体調不良の方が発生した場合を想定し、ベッドや仕切りなどを設置した緊急避難用のスペースを設けるなど、高い危機意識のもと館運営が行われた。 ○情報資産の安全管理に向け、マニュアルの周知や研修及び自己点検を実施し、情報流出などの事故を起こすことなく1年間の運営が行われた。	
		(2)危機管理(防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	◎		
(3)組織体制(人員配置、人材育成の取組)		限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○			
(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組		個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○			
(5)業務の品質管理と自己評価		外部評価委員会の開催等、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○			
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○既存備品の管理や新規に買い入れた財産の報告などを適切に行っている。	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金を積極的に活用している。	×1	○		
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○			
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理(収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。	×2	○	○葛飾北斎の肉筆画「鯉図」の収集や火災保険特殊地図の複製製作など、江戸東京の歴史を研究・継承していくための着実な取組が行われている。 ◎新たな資料公開システム「江戸東京博物館デジタルアーカイブス」の運営を開始し、コレクションごとに閲覧できるWEB構成や検索性の向上を実現させた。 ○「紀要」「史料叢書」の発行などに着実に取り組んでいる。コロナ禍の影響で他館との共同研究会などが中止となったが、過去の研究成果をえどはくカルチャーで講演するなど、博物館の学術的役割を果たすために取り組んでいる。 ○「大東京の華」展において館周辺などの名所を昭和初期と現在で比較したマップを製作するなど、より展示を楽しんでもらうための工夫がなされた。また、展示室内に光触媒による抗ウイルス加工を施すなど安全な鑑賞環境の確保に取り組んだ。 ◎コロナ禍の影響を大きく受けたが、各展示の解説動画や資料画像をWEBで公開するなどオンラインによる情報発信に取り組んだ。エジプト展では共催先などとの調整により、都下で大規模な展覧会が少なかった時期に会期を前倒して実施したこと注目を集めたほか、アニメーションを用いた展示解説など来館者の関心を掻き立てる仕掛けづくりを行った。 ○たてももの園では、復元建造物内の見学動線を一方通行にしたり入室目安の人数を表示することで安全な観覧環境を確保した。また、情景再現事業は「紅葉とたてもものライトアップ」のみの開催となったが、地元観光協会と連携しながら行列抑制策を取るなど安全に配慮して実施できた。代表的な所蔵建造物である子宝湯にも密接に関連する特別展「大銭湯展」を浴場組合や銭湯等の協力を得て実施した。 ◎えどはく寄席等のオンライン公開、たてももの園における教育支援サイト「えらべる 学べる えどまる広場」の開設など、コロナ禍においても学びの機会を提供するため積極的に取り組んだ。 ○資料情報システムの改修により、WEB上での蔵書検索(OPAC)の利便性が向上した。またレファレンス共同データベースへの貢献の高さから、国立国会図書館から顕彰を受けた。	
		(2)資料の活用(貸出・借受外、資料情報システム、映像ライブラリー等)	作品貸与や公開に積極的に取り組むなど、収蔵作品の効率的な活用を図る。	×2	◎		
		(3)調査・研究	江戸東京の歴史と文化に関する魅力あふれる研究を実施するとともに、収蔵品の調査研究活動の成果や資料情報を広く国内外に発信する。	×2	○		
		(4)常設展・企画展の内容	収蔵資料や複製資料を効果的に活用し、楽しく親しみやすい展示を行うことで、江戸東京の歴史と文化の多彩な魅力を発信する。	×2	○		
		(5)常設展・企画展の入場者数	観覧者数 723,000人以上	×1	-		
		(6)特別展等の内容	魅力的かつ質の高い企画内容で世界から訪れる人びとが注目するような特別展を開催し、ファン層の増加を図る。	×2	◎		
		(7)特別展等の入場者数	観覧者数 428,800以上	×1	-		
		(8)たてももの園の事業内容	復元建造物を活かし、江戸東京の生活や商いの諸相を再現し、歴史や文化を体験してもらう。	×2	○		
		(9)たてももの園の入場者数	観覧者数 25万人以上	×1	-		
		(10)教育普及事業	講座や体験事業など、幅広い年齢層に江戸東京の歴史と文化を学べる環境を提供する。	×2	◎		
	(11)図書室の運営	江戸東京に関する図書や定期刊行物を広く収集し、提供する。	×1	○			
	(12)その他の事業	ボランティアの活用や友の会の運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○			
	事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び閉館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1		○
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の博物館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2		○
			(3)地域連携	地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2		○
(4)施設及び付帯設備の貸出			伝統文化等を国内外に向けて発信する等、幅広い用途で貸出を行う。	×1	○		
(5)広報、プロモーション			HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎		
事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○		
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○		
		(3)館内サービス(基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	◎		
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○		
		(5)その他(利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○コロナ禍により江戸博、たてももの園ともに多くの事業が中止や会期変更などの影響を受けた。そのような状況でも、適切な感染症予防対策を行うとともに、企画の再構成や展示の解説動画をオンラインで配信するなど、新しい日常の中で文化施設に求められる役割を果たした。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
54	A

標準点	評価基準	S	58点以上
43		A	54~57点
		B	38~53点
		C	37点以下

指定管理者の財務状況

財務状況には課題があるが、健全化に向けた対策を検討している。

特命要件の継続

特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和2年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都写真美術館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由		
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	◎コロナ禍にあっても、感染防止対策を徹底しながら学芸ミーティングを実施する等スタッフ間の情報共有を積極的に行っており、館の効率的かつ発展的な運営につなげている。 ○個人情報の研修をスタッフ全員に対して行っている。 ○企画諮問会議と外部評価委員会を実施し、館運営への活用を行っている。		
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○			
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○			
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○			
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○			
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○			
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金や支援会員制度等を通じた外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	◎			
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○			
		事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。		×2	○
				(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム等)	作品貸与や公開に積極的に取り組み、収蔵作品の効率的な活用を図る。		×2	○
(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。			×2	○			
(4)収蔵展の内容	収蔵作品を最大限活用し、質、満足度ともに高い展覧会を開催する。			×2	◎			
(5)収蔵展の入場者数	来場者数148,430人以上			×1	-			
(6)自主企画展、実験劇場、国際交流事業等の内容	多様な切り口での魅力的な展覧会を開催する。			×2	◎			
(7)自主企画展、実験劇場、国際交流事業等の入場者数	自主企画展来場者数125,760人以上、実験劇場来場者数26,910人以上			×1	-			
(8)教育普及事業	写真愛好家だけでなく、子供、シニア層など対象者の年齢や関心の度合いに応じた多様な教育普及事業を実施する。			×2	◎			
(9)図書室の運営	写真・映像の専門図書館として、作家・他美術館とのネットワークを活かした収集等を行う。			×1	○			
(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。			×1	○			
事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○			
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	○			
		(3)地域連携	地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2	○			
		(4)施設及び付帯設備の貸出	1階ホールの稼働率90%以上、誘致展の来場者数78,900人以上	×1	-			
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎			
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○			
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	◎			
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○			
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○			
		(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○			
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	◎コロナウイルス感染症拡大防止の対策をガイドラインに従って適切に行い、事業を実施した。展覧会が中止となった時期においても、オンラインで多様かつ数多くのプログラムを工夫して実施し、新たな来館者を獲得する取組を積極的に行った。		

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
50	A

標準点	評価基準	S	54点以上
40		A	50～53点
		B	36～49点
		C	35点以下

指定管理者の財務状況

財務状況には課題があるが健全化に向けた対策を検討している。

特命要件の継続

特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和2年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都現代美術館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○検温や消毒液の設置など、新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら着実な美術館運営が行われており、来館者の安心にもつながっている。 ○在宅勤務等の新しい生活様式に合わせた働き方を導入し、委託業者等とも綿密に情報共有を行い、円滑な美術館運営が行われている。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○		
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○		
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	◎社会情勢が厳しいなかで、多くの協賛金を獲得するなど、外部資金獲得への著しい努力が伺え、積極的な取り組みの成果が表れている。	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等を通じた外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	◎		
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集し、適正な環境で保管する。	×2	○	○外部収蔵庫と館内の収蔵庫を効率的かつ安全に併用利用することで、質の高い作品の収集と適正な環境での管理を実現している。 ○国内研究機関との共同研究など積極的な取り組みがみられ、それが紀要や展示会の解説等によって都民に還元されている。 ◎石岡瑛子展が令和2年度美術館連絡協議会特別賞受賞し、来館者からも高い満足度を得ている。アートブックフェアではリアルとバーチャルを両立した新しい展示会の形式に挑戦し、成果を残した。マークマンダースの日本初の個展を開催し、多くの来館者を集めるなど現代美術館の特色を活かした多様で魅力的な企画を多く実現させるだけでなく、来館者等から高い評価を得ている。 ◎アーティストの一日学校訪問や授業用DVDの貸出など、学校向けプログラムにおいて目標を達成しているだけでなく、学校団体鑑賞ではコロナ禍に対応したりリモートの鑑賞プログラムを新たに始めるなど、今後の事業にも影響するような大きな成果を残している。 ◎パスポートは目標の6割にあたる1000枚を1か月弱で売り上げるなど、ニーズに噛み合ったサービスが提供できており、コロナ禍の中で大きな成果を挙げている。	
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム等)	作品貸与や公開に積極的に取り組み、収蔵作品の効率的な活用を図る。	×2	○		
		(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	○		
		(4)常設展の内容	常設展の実施を通して現代美術の成り立ちや魅力を紹介する。	×2	○		
		(5)常設展の入場者数	130,000人以上	×1	-		
		(6)企画展等の内容	国内外で注目される幅広いテーマやジャンルから選んだ企画を実現し、多様で魅力的なラインナップで開催する。	×2	◎		
		(7)企画展等の入場者数	300,000人以上	×1	-		
		(8)教育普及事業	学校向けのプログラムや鑑賞プログラム、ワークショップなど多様なプログラムを展開する。	×2	◎		
		(9)美術図書室の運営	国内有数の規模を誇る美術専門図書室として専門性を高めるとともに、「こどもとよしよつ」等の新設機能も積極的に活用する。	×1	○		
		(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。また、ファン層の拡大に向け、パスポートの戦略的な運営を図る。	×1	◎		
	事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1		○
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2		○
			(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2		◎
			(4)施設及び付帯設備の貸出	幅広い用途にて貸し出しを図るとともに、リピーターを増やすことで、稼働率向上を図る。	×1		○
			(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2		◎
事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○		
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○		
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○		
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	◎		
		(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	◎	◎多彩で充実した展示会の実施により現代美術の発信と継承に寄与している。また、教育普及事業について、計画に基づき適切な事業運営がされているだけでなく、時勢に合わせた新しい取組を実施し、次世代育成に積極的に取り組んでいる。さらには、感染症拡大防止の取組を経てバリアフリーの向上がみられ、地域に密着した取り組みも行われている。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
54	A

標準点	評価基準	S	55点以上
41		A	52～54点
		B	37～51点
		C	36点以下

指定管理者の財務状況

財務状況には課題があるが、健全化に向けた対策を検討している。

特命要件の継続

特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展示会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和2年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名:東京都美術館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	◎		
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	◎自衛消防活動について消防署から表彰を受けた。また、優良防火対象物認定の更新がされた。	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	○検温、消毒、お客様へのマスク着用への声掛けなど感染拡大防止のための取組みを限られた人数で効率的に行っている。	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	△	△個人情報の管理について、一部不適切な点があったため、一層の危機意識の向上と未然防止の仕組み作りに取り組む必要がある。	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	○外部評価委員会、満足度調査等を適切に実施している。	
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○		
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	○	○文化庁資金での連携ガイド制作、特別展における複数企業からの協賛獲得など、厳しい状況下でも成果をあげている。	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (分類整理、記録、保管)	適宜調査や補修等を行い、収蔵品を適切に管理している。	×1	○		
		(2)資料の活用 (貸出・借受外)	他の都立文化施設の収蔵資料を活用することで、鑑賞の機会を提供し、有効活用を図る。	×2	○	○美術資料は野外彫刻作品を含め適切に検査、メンテナンスされている	
		(3)調査・研究	館独自の事業に関わる調査研究等を行い、その成果を広く社会に還元する。	×2	◎	◎「社会包摂につながるアート活動のためのフォーラム」での事例紹介、コロナ禍におけるアートコミュニケーションに関する論考3本の発表(紀要)、文化庁との「ミュージアム・エデュケーション研修」共催など、独自の知見を発信する取り組みが顕著にみられた。	
		(4)特別展の内容	多様な視点で時代や地域を紹介する、質の高い芸術作品を用いた展覧会を開催する。	×2	◎	◎UKIYO-E展、吉田博展の展示作品は質量ともに充実し、95%以上という観覧者満足度の高さから図録の購買率も非常に高かった。	
		(5)特別展の入場者数	入場者数 85万人以上	×1	—	○「Walls and Bridges」展は会期延期となった。上野アーティストプロジェクト「読み、味わう昭和の書」及びそれと連動したコレクション展では江戸東京博物館の資料も活用し、釈文とともに展示することで書芸術の普及の一助となった。	
		(6)企画展の内容	創造や共生の場となり、「生きる糧としてのアート」と出会う場になるような展覧会を開催する。	×2	○	◎オンラインを活用したプログラム、配布物やラジオの形式による普及活動などを充実させ、コミュニケーション手段の制約を乗り越えた。アートコミュニケーターの応募数は過去最高となった。	
		(7)企画展の入場者数	入場者数 62,800人以上	×1	—	○展覧会中止や臨時休館に伴い利用者目標には届かなかったが、図書室・ラウンジともに感染防止を徹底し、適切に運営した。寄付金により映像「佐藤慶太郎と東京都美術館の歩み」を制作・上映した。	
		(8)教育普及事業(アートコミュニケーション事業)	プログラムの充実や他の自治体及び他館への普及を図る。	×2	◎		
		(9)美術情報室、アートラウンジの運営	美術情報室について、ライブラリー機能に、館のアーカイブズの役割を加え、より広範で深い美術情報を提供する場とする。	×1	○		
		(10)その他の事業	公募展活性化事業等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○		
	事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	○緊急事態宣言に係る臨時休館や夜間開館の休止等臨機応変に対応した。
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	◎東京藝術大学や上野周辺9機関と連携して行うMuseum Start あいうえの事業は、オンラインとリアルを組み合わせ、当初目標を超える参加人数を達成した。
			(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	○	○上野3館の連携ガイド制作、上野各館を巡る「上野文化の杜音めぐり」への参画、上野駅内商業施設との広報連携などを行い、地域連携の発展につとめた。
			(4)施設及び附帯設備の貸出	公募展示室稼働率 100%及びその他貸出施設等についても有効活用を努める。	×1	○	○例年に比べ講堂の稼働率は下がったが、最大収容人数を制限し適切に運営した。また、令和4-8年までの公募展示室割当を実施した(割当稼働率100%)
			(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	○臨時休館、予約制等必要な情報の遅滞ない発信に加え、休館中にも展覧会の関連クイズ実施などを行い、美術館と繋がる体験を提供した。
事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○案内スタッフの英語・中国語対応を継続実施するほか公募展カレンダーの英語・中国語版を提供している。バリアフリーマップ(WEB用)の制作を進めている。	
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	○展覧会担当・広報担当が情報を提供し、展覧会に合わせた特別メニューの開発やショップグッズ選定に協力した。	
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	○月に1度委託業者を交えたスタッフ連絡会を行い情報共有や提案を行うことで平時のホスピタリティの向上、緊急時の管理体制確保に努めている。	
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	○ご意見箱・メールに寄せられた意見から必要な措置をとっている。託児サービスは感染症対策を徹底した上で実施している。	
		(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○臨時休館や特別展の中止に伴い、観覧者数や付帯する施設の利用者数は定量目標に達しなかった。しかし限られた条件下で、質の高い展示・研究・普及事業や複数の媒体を活用した発信等を実施しており、多様な体験と知見を提供することで、美術の振興と発展に貢献している。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
49	B

標準点	評価基準	S	54点以上
40		A	50~53点
		B	36~49点
		C	35点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題があるが健全化に向けた対策を検討している。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和2年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名:東京文化会館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○公演中止等によるホールの空き枠を活用して、経年劣化や不具合が生じている設備の修繕を臨機応変に実施するなど、工夫して施設設備を管理している。 ◎東京都交響楽団と共同し、飛沫の計測等を通して安全な奏者間の距離、楽器の配置等を検証する「COVID-19影響下における公演再開に向けた試演」を全国に先駆けて行い、音楽界全体の活動再開に寄与した。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	◎		
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○		
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	◎外部資金として、平成30年度に採択された文化庁の助成金(機能強化総合支援事業)のほか、民間からの助成金及び協賛金も積極的に取得している。また、個人からの資金獲得に向けて、公演中止等に伴うチケット払戻金の寄付受入れ制度を整備したほか、令和3年度から開始する賛助会員制度の制度設計や詳細検討などに取り組んだ。	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	◎		
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)施設の貸出 (大ホール、小ホール)	大ホール稼働率 9割以上、小ホール稼働率 8割以上	×2	-	◎ヴォルフ作曲「イタリア歌曲集」は、歌曲をオペラ化した上、新進気鋭のコンテンポラリーダンサーの振付によるダンスとコラボレートするという独創的な試みであり、来場者の満足度が100%となるなど高い評価を得た。また、コロナ禍で入場者数が制限される中、英語字幕付きの動画配信を行い、国内外に公演の様子を発信した。さらに、地元商店会との共催であるオペラBOX「アマルと夜の訪問者」は、コロナ禍での最初の舞台制作となったが、出演者の衣装を口元を隠すものとするなど感染症対策徹底し、安全に実施した。 ◎東京音楽コンクールは、緊急事態宣言下でも多くの申込みがあり、若手演奏家にとってのステータスを確立している。また、公開審査のチケットが完売する等、注目度は高く、優れた人材の発掘とその後の活躍につなげる重要な機会となっている。 ◎ワークショップは、コロナ禍でカーザ・ダ・ムジカの講師が来日できなかったが、これまでのノウハウを生かし代わりに日本人リーダーがプログラムを実施するなど、工夫して事業を継続した。また、特別支援学校において、東京文化会館ワークショップリーダーによるオリジナルワークショップをオンラインで実施するなど、社会包摂や社会的課題の解決に向けた先駆的な取組を行っている。	
		(2)施設の貸出 (リハーサル室、会議室等)	会議室等について積極的な貸出を行う。	×1	○		
		(3)芸術文化の振興に関する事業 (創造・発信)	質の高い創造を行い、全国への幅広い成果の波及を図る。	×2	◎		
		(4)芸術文化の振興に関する事業 (育成・支援)	才能を持つ新進・若手音楽家等を発掘、起用育成を図る。	×2	◎		
		(5)芸術文化の振興に関する事業 (次世代への投資)	ワークショップ・アウトリーチ活動を積極的に行う。	×2	◎		
		(6)音楽資料室の運営	利用実態等を踏まえた運営を行い、顧客満足度を向上させる。	×1	○		
		(7)その他の事業	友の会の運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○		
	事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	○	
			(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	○	
			(4)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎	
	事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	◎アクセシビリティに配慮したHP運用や、英語でのツイッター投稿など、より多くの人に館の事業や魅力を知ってもらうために、日々広報に努めている。また、YouTubeチャンネル「東京文化会館チャンネル」を開設し、公演やワークショップをオンライン配信することで、コロナ禍における音楽鑑賞機会の拡充に努めた。 ○利用者に配慮した設備改善に取り組んでいる。 ○バリアフリーアクセス案内の更新作業を進めるなど、来館者の多様性を意識したアクセシビリティ向上に努めた。 ○施設内の各店舗に飛沫防止対策や消毒の実施等を徹底させ、従業員及び来客の感染防止に努めた。
			(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	
			(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	
			(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)			利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○コロナウイルス感染症拡大防止の対策をガイドラインに従って適切に行い、「音楽・舞台芸術の殿堂」にふさわしい良質な公演の鑑賞機会を確保している。次世代への音楽文化の教育普及や社会包摂といった今後より一層重視されるであろう課題にも、コロナ禍に対応した方法を検討し、継続して取り組んでいる。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
46	A

標準点	評価基準	
	S	47点以上
35	A	44～46点
	B	31～43点
	C	30点以下

指定管理者の財務状況

財務状況には課題があるが健全化に向けた対策を検討している。

特命要件の継続

特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和2年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名:東京芸術劇場

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由		
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	◎	◎パイプオルガンのオーバーホール、貯湯槽系蒸気還管更新、コンサートホールすのこ照明灯交換などの緊急性が高いものや館運営に影響が及ぶような修繕工事を適切かつ迅速に実施している。また劣化診断調査においても積極的に状況調査に応じ、施設設備等の管理に対する意識が高い。 ○感染拡大防止の観点から書面による防災訓練を初めて実施するなど、防災への高い意識が伺える。また、事故が発生した際には適切な方法で迅速に事故を報告している。 △情報の管理について、一部不適切な点があったため、一層の危機意識の向上と未然防止の仕組み作りに取り組む必要がある。		
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○			
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○			
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	△			
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○			
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	◎コロナ禍の強い影響を受け、赤字だった決算見込みを文化庁や経済産業省からの外部資金を積極的に獲得することで、自主事業の黒字化に成功している。 ◎日常的な維持管理が問題なくできているだけでなく、保全物品台帳の再整理を行うなど物品管理に対する高い意識が高く、優良な管理体制と言える。		
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取り組んでいる。	×1	◎			
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	◎			
事業効果	事業の実施状況	(1)施設の貸出 (大ホール、中ホール、小ホール)	稼働率について、大ホール 62%以上、中ホール 87%以上、小ホール1 96%以上、小ホール2 94%以上	×2	-	◎コロナウイルス感染症の影響によって中止や延期になる公演が多い中、様々な工夫によって公演を遂行できたものがあった。特に「ダークマスター」では、VRゴーグルを使った作品に転換するという新たな試みがあった。また、田中混さんの日本ダンスフォーラム賞受賞や読売、鈴木杏さんの紀伊国屋演劇賞を受賞等、演劇の質の高さが成果として顕著に表れている。 ◎30周年記念公演として行った「フィガロの結婚」はオペラというハードルの高い公演であったが、コロナによるキャストの変更を余儀なくされたなかで、適切にコロナウイルス対策を講じ、ミュージアムや北九州芸術劇場での公演を完遂し、満足度の高い公演となった。 ○オルガンのオーバーホールを行うほか、日頃より定期的なメンテナンスを行っている。また、オルガン・ア・ラ・カルトでは席数を限定しながら公演を行い、延べ10回の公演のうち中止したのは1回だけであった。 ○水天宮ピットはコロナ対策を十分に取っながら運営を続けたことで高いスタジオ稼働率を維持し、利用者の高い満足度にも貢献した。		
		(2)施設の貸出 (展示室、リハーサル室、会議室)	展示室やリハーサル室等について積極的な貸出を行う。	×1	○			
		(3)芸術文化の振興に関する事業 (音楽)	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行っている。	×2	○			
		(4)芸術文化の振興に関する事業 (舞台芸術)	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行っている。	×2	◎			
		(5)芸術文化の振興に関する事業 (育成・支援)	次代の舞台芸術を担う人材の育成事業を積極的に企画・実施している。	×1	○			
		(6)芸術文化の振興に関する事業 (次世代への投資)	劇場を身近に感じてもらえるような教育普及プログラムを企画・実施している。	×1	○			
		(7)芸術文化の振興に関する事業 (劇場の賑わい創造事業ほか)	多様な人々がともに参加できる、楽しく賑わいのある空間を創出する。	×1	◎			
		(8)パイプオルガンの保守・管理及び活用	パイプオルガンを活用し、オルガン音楽の魅力を普及させる。	×1	○			
		(9)その他の事業	水天宮ピットの運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○			
	事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1		○	
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2		◎	
			(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2		○	
			(4)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2		○	
		事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。		×2	○
				(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。		×1	○
(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。			×1	○			
(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。			×1	○			
(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。			×1	○			
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づき、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	◎コロナウイルス感染症拡大防止の対策をガイドラインに従って適切に行い、芸術文化の創造発信拠点としての役割を果たすため、各種公演を遂行した。またグローバルシアターとの連携や東京演劇道場の公演など地域連携や人材育成などの事業展開もコロナ禍に対応した方法を検討し、実行している。		

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
44	B

標準点	評価基準	S	48点以上
36		A	45～47点
		B	32～44点
		C	31点以下

指定管理者の財務状況

財務状況には課題があるが、健全化に向けた対策を検討している。

特命要件の継続

特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。